

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 熊本県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	熊本県立盲学校（小学部3名、中学部7名、高等部7名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（小：国語・道徳 中：総合的な学習の時間 高：特別活動・総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツの意義や価値等に対する理解や関心を高める。生涯を通じたスポーツへの主体的参加の定着と拡大につなげる。
5 取組内容	<事前学習> 「オリンピック・パラリンピックセミナー」の初瀬勇輔さんの講演内容から、「Super human」というタイトルで、パラリンピックの意義や、多様性の素晴らしさ・可能性について考える学習を行った。 <オリンピック・パラリンピック事業> 講師として、パラアスリートの田中司選手（三井住友海上所属）をお招きして、講演「夢への挑戦」及び実技指導「投げることに関する実技」を実施。 <事後指導> 「オリンピック・パラリンピック事業」後にアンケートを実施し、アンケートに回答しながら、自分の気持ちがどのように変化したのか？それは、なぜなのか？等について考えた。講師の田中選手のことを応援したいという気持ちや、パラリンピックへの興味関心の高まりなど、自分の気持ちの前向きな変化を知る時間を設けた。

6 主な成果	主な成果として、2点考える。1点目は、パラアスリートの田中選手に実技を指導していただくことができたため、児童生徒が初めて経験する「やり投げ」に対して「投げてみたい。」と積極的にチャレンジする姿が多く見られ、やり投げ等を楽しむ姿がみられたこと。2点目は、パラアスリートやパラリンピックへの興味関心が高まったことである。 1点目については、実技指導の際に、田中選手の模範演技を実際に観たり、丁寧に投げ方を教えていただいたりしたことで、パラアスリートのすごさを実感し、投げることへの意欲が高まったと考える。2点目については、事前学習時には、オリンピックやパラリンピックが開催されていることを知らない生徒や、知っていても興味が薄く、テレビ放映を一度も観たことのない生徒が多かったが、事後学習時のアンケートでは、ほとんどの生徒が、興味関心が高まったと回答している。高等部の生徒においては、「田中選手を応援しに会場に行きたい。」という声も聞かれた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	• 本校のスポーツテストの結果において、投げる種目が苦手な生徒が多いという結果がでているため、同じ視覚障がいのある投てき種目のパラアスリート選手を探していただいた。 • 動機づけになるよう、投てき（ジャベリックスロー）の単元導入時に「オリンピック・パラリンピック事業」を実施した。 • 実技指導時には、見えづらさのある生徒達への配慮として、触覚や聴覚で分かりやすい教材を準備した。  投げる角度を確認することができるよう、体育館の2階からバトンを通したロープを張る。しっかり飛ばすことができた時には、2階の手すりにバトンが当たり、音が鳴るため、見えづらさのある児童生徒たちにも分かりやすいようでした。
8主な課題等	小学部から高等部までの様々な実態の子ども達がいるため、実技の時間を多く設定すると、更に「投げること」に対して技術の面、意欲の面でアプローチすることができたと感じました。
9来年度以降 の実施予定	来年度も引き続き実施するとともに、運動種目については、児童生徒の興味関心等の実態から検討していきたい。